

## 第3回「長野県公共交通活性化協議会 北信地域別部会」

日時：令和4年9月21日（火）14：30～16：00

場所：オンライン開催（Zoom）

（北信合同庁舎201会議室）

### 1 開会

#### 【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】

北信地域振興局企画振興課長の北澤でございます。

本日はお忙しいところ、第3回長野県公共交通活性化協議会北信地域別部会にご出席をいただきありがとうございます。コロナの関連で引き続きオンラインの開催ということにさせていただいております。

5月に第2回北信地域別部会を開催し、その場において公共交通で支える暮らし、今ある交通手段やサービス水準、交通関係者間の役割分担について、を中心にご議論をいただいております。本日は、この第2回地域別部会の内容を踏まえまして、長野県地域公共交通計画における取組みの方向性、特に北信地域における取組み、それから北信地域における拠点および拠点間路線について、委員の皆様からご意見をいただければと考えております。

様々なお立場の委員の皆様にご出席いただいておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

### 2 会議事項

#### 【事務局】

会議事項に入る前に、本協議会の公開についてご説明いたします。本協議会については会議資料及び議事録を県のホームページへ掲載するなどの方法により公表させていただきますのでご了承をお願いいたします。また、議事録を作成するため協議会の模様を録画・録音させていただきますので、併せてご了承いただきますようお願いいたします。次に、資料の確認をいたします。資料は事前にメールで送付しています。お送りいたしました資料はお手元の次第、配布資料一覧のとおりです。ご確認をお願いいたします。

委員名簿については資料のとおりですが、本日一部委員から急遽欠席の旨のご連絡をいただいておりますのでご承知おきください。なお、第2回の地域別部会まで委員として参加いただいております岳北ハイヤー様について、委員から会社の合併による事業の廃止により、本会からの退会の申し出がありました。また、長野電鉄労働組合さんについて、役員の変更があったとのことで、今回の会議から委員が変わりまして清滝委員に交代になっておりますので、あわせて報告いたします。

それでは、会議事項に入らせていただきます。「長野県公共交通活性化協議会、地域別部会設置要領」の第4によりますと、会長に地域振興局の企画振興課長を充てるとされております。よってこの後の進行は、会長である北信地域振興局企画振興課長の北澤が務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

それでは、司会を務めさせていただきます。本日は会議事項につきまして、長野県企画振興部交通政策課から資料に基づいて説明をしていただいた後、皆様からご質問ご意見を頂戴するという形で進めたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(1) 地域公共交通計画について

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

それでは(1)地域公共交通計画について、交通政策課丸山企画幹ご説明をお願いいたします。

**【交通政策課 丸山企画幹】**

長野県交通政策課の丸山です。資料1についてご説明いたします。

今回の計画の策定に当たりましては様々なご意見を皆様からいただきまして今後の取り組みに活かすこととしております。4頁の資料は、公共交通の役割や現在の公共交通で不足している部分等について、これまでにいただいたご意見をまとめたものになります。左側をご覧くださいますと、公共交通で支える暮らしということで、高齢者、高校生、また、自力で車を運転できない方を支えるべきだという意見をたくさんいただいております。

また、真ん中のところ、現状の公共交通について気になっていること等ですが、便数やルート、乗換といったものや、運賃が課題というご意見をいただいております。

一番右ですが、関係者の役割分担というところで、行政の中での県と市町村の関係については、長野県は市町村を越える広域的な移動を担うべきであり、市町村については、各市町村の中を面として支えていくべきだというご意見をいただいております。行政と事業者の関係でいきますと、事業者の皆様は安全安心な運行を支えるという一方で、行政の方で、路線のルートやダイヤ、運賃等のサービスの水準をきちんと定めて、そこへ支援をしてほしいというご意見をいただいております。いただいた主な意見については抜粋して記載しています。

資料5頁をご覧ください。これまでにいただいたご意見を踏まえて今後どのように取組を進めていくかという方向性を記載しています。途中の黄色の囲みの部分ですが、ターゲットといたしましては先ほどのご意見にあったように、医療機関への高齢者の通院であるとか、高校生が通学できる、そういったことを重点的に取り組むことといたしまして、この協議会において、維持すべき路線やサービス水準について検討していきたいと考えております。観光についても視点として欠かすことができないということで、観光客が円滑に移動できる環境を整備する必要があると考えております。

この資料からは外れますが、今回の地域別部会の開催にあたり委員から鉄道に関することでご意見いただいております。ご承知の方もいらっしゃると思いますが、国土交通省では、地方鉄道の再構築について検討会等が開催され、提言等が取りまとめられたところです。またJR東日本が地域鉄道の利用状況等を公表いたしまして、必要な部分については地元と協議していくとされています。この部分について、この協議会での扱いはどのようになるかというご質問を事前にいただいております。

鉄道につきましては、当然長野県内を支える、移動の大きな軸になりますので、飯山線や長野電鉄も含めた鉄道全体について、議論の対象としているところです。一方で飯山線に関しては県境をまたいで新潟県等へ運行されているということもあり、この場だけで議論を尽くすということは難しいところですので、JRや国の動向も踏まえながら、必要な場合には新潟県とも協調しながら、必要な検討をしていくことになると思っております。資料の説明は以上です。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

今回の資料5頁のご発言をいただきたいポイントですが、資料の中の「取り組みの方向性」につきまして急遽、皆様に事前アンケートをお願いいたしました。お忙しい中、また短期間でのお願いでしたが、ご対応いただきありがとうございます。本日取りまとめの結果を資料としてお配りさせていただいております。

先ほどの交通政策課の説明にありました、公共交通で支える暮らしということでの対象の方々の部分もごさいますが、その前に、各市町村における交通政策ということでご回答をいただいておりますのでその部分をまとめております。こちらの資料でいきますと地域公共交通計画を含めて、現状を共有したいということでした。今回、追加の資料といたしまして、中野市さんと山ノ内町さんの地域公共交通計画、それから飯山市さんの地域公共交通計画を資料として配布をさせていただいております。

まず、各市町村さんからお答えをいただいております部分について、計画の内容も含めて、補足がございましたらご発言いただければお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。それぞれに計画を立てられまして、作っておられる部分、実際に進められております具体的な事業を記載いただいておりますけれども、ご発言いただければと思います。

(発言なし)

よろしいでしょうか。中野市さんと山ノ内町さんが共同で計画を策定され、また、飯山市さんの計画につきましても、路線が延伸しております木島平村さん、野沢温泉村さんが会議の委員として、また幹事会の方にも中野市さんがオブザーバーとして参加いただいて、地域公共交通計画を策定されておりますので、またご覧いただければと思います。

それでは続いて、取りまとめたアンケートの中身につきまして、話を進めていきたいと思っております。アンケートの2頁以降で対象となる方ということで、自家用車に頼ることのできない者の移動、地域における課題ということで、先ほどの「公共交通で支える暮らし」で出ておりました対象の方々、高齢者、高校生、観光客という部分につきまして皆様からアンケートの回答をいただいておりますが、こちらについて補足や、聞いてみたいことがございましたらご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(発言なし)

お困りごとの部分、それから、どうして利用しづらいのかというようなことで、ご回答いただいております。高齢者の部分と高校生の部分というところと観光客の部分で異なってくるのかと思っております。

アンケートをいただいた中で、高齢者、高校生、観光客というような仕切りを作っているところですが、アンケートでは「その他」のところになってしまうのですが、対象の限定についてご回答をいただきました。今回の公共交通計画の対象が高齢者、高校生、観光客ということでいただいておりますけれども、この点について長電バスさんからご回答いただいたきました。補足でお話があれば、ご発言いただいてもよろしいでしょうか。

**【小林委員（長電バス株式会社）】**

補足ではありませんが、特に地域になってしまうと限られた本数ということになるので、高齢者、高校生、観光客全て網羅したバス運営は厳しい状況です。アンケートにも書きましたが、公共交通ではなくて個別の交通になってしまうこともあるので、バス事業者としては難しいところかと思っています。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

ありがとうございます。なかなか資源が限られてる中でということでご発言をいただいております。今後の方向性を考えている中で、アンケートで柳澤先生からも、アンケートの考え方についてご回答いただいておりますけれども、こちらの部分につきましても、補足でご発言ありましたらお願いできますでしょうか。

**【柳澤委員（長野工業高等専門学校教授）】**

おそらく準備されているか、今後準備されるかと思いますが、この地域の利用実態や移動実態があったら示していただいた方が、考えやすいと思いましたが、どうしても他の地域の成功事例を当てはめたくところですが、この地域では地理的なものや年齢構成、就業形態、施設の分布が異なってきますので、やはり成功事例を当てはめようとしてもうまくいかない場合がありますので、やはりちゃんと実態を把握した方がいいのではないかと考えています。

それから、すべての需要に対応することは、今ご発言でもありましたけれども、不可能だと思います。従ってターゲットやサービスレベルの枠組みをしっかりと決めて、対応していただくことがいいと思います。

これは何度も申しあげてきましたが、広域であっても、やはり人口減少・少子高齢化の中ではやはりコンパクトで、各地域から離れたところ、コンパクトにならない部分については、公共交通で繋ぐ。すなわち地域づくりを考えてその上で、地域にとってより良い公共交通となる、要するに人の移動が維持できるようなツールとなるように考えていただくことが必要ということなんです。

それからもう一つは、どうしても利用者が少なくなるとデマンドを導入したくなる行政が多いのですが、やはり注意しないと、特に広域対応の路線の中にフルデマンドが入りますとどうしても「軸」とはなりませんので、県と各市町村が連携をして、できるだけ軸が残るような形で、進めていってほしいということで述べさせていただきました。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

ありがとうございます。今後立てていく計画の中で根本的に考えていかなければいけない基本の路線で気をつけなければいけない部分、それから、今後必要になるデータ等ということで、柳澤先生からお話をいただきました。

今回はターゲットとなる者ということで高齢者の方、高校生の方とそれから観光客の方ということで、皆様から課題ということでいただいております。その中で、どうしても本数や時間帯の部分、それから実際の車両的なことについて高齢者のところで記載いただきましたし、距離の部分、地域が点在しているといったような課題が出ておりました。

高校生の方に関しては、そこに加えて学校の授業との関連ということで、交通事業者の方も含め、授業が行われる曜日によって違うということでの課題があるのではないかと、また、行政の方々からも部活の部分で課題があるのではないかとという意見が出ておりました。高校生の方々の移動について、どの程度公共交通を使ってるかというについてご回答いただいた部分がございますけれども、この地域の学生さんの公共交通での各学校の利用率というのは、どちらかで把握されていますでしょうか。お話をいただくとありがたいです。

以前私どもの方でこちらの会議を設置するにあたって伺ったところでは、下高井農林高校さんは公共のバスを使う方が多いが、どうしても親御さんの送迎が多くなってしまいうところも地域に増えているようなんですけれども、そのあたりについてどなたかございますでしょうか。飯山市さんから送迎する家庭の負担感みたいなことでアンケート結果を記載していただいておりますけれどもこのあたりのところについて補足いただくことは可能でしょうか

**【木村委員（飯山市企画財政課長）】**

送迎をする方の負担感ということで、アンケートに記載した通り、8割以上の方が特に負担は感じていないという高校生の送迎をする方からは回答いただいておりますが、その中でも「できれば公共交通を使ってほしい」という回答もあったところです。また高校生にアンケートを行った段階で、冬期が一番公共交通を利用することが高校生は多いという回答があったのですが、利用することが多いとされる冬期においても15から16%程度が利用しているという回答となっております。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

本日はご欠席されております委員様の回答で、アンケートでいきますと4頁の中段以下のところで実態も記載いただいております。さらに飯山市さんからのご発言にありましたように、冬期に関しての送迎について意見が出ているということで、どうしても季節感のばらつきが出てしまう地域特性がありますが、こうしたところも考えていかなければいけないと考えています。今後、この課題としていただいたものをまとめまして、取り組みの方向性ということで、必要になってくることについてさらに検討を進めていきたいと思っております。

先ほどお話のありましたデータについて、今後提供していただけるとか、データを取るとか、今後の方向性は何かあるのでしょうか。もしくは、もう取ってあるのでしょうか。

**【NPO法人SCOP 富樫主任研究員】**

データに関しては令和3年度に県内で各路線の調査を行ったほか、その他ビッグデータの集計と利用者アンケートを行っております。その結果については令和3年度の報告書にまとめており、資料中の方針に関してもデータを踏まえた形にしていますが、その裏付けになるデータそのものは本日の資料におつけしてない状態でありまして、やはり不十分でありますので、次回の会議のときにはバックデータになるものを備えてお示しさせていただきたいと思っております。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

ありがとうございます。ではまたデータ等を踏まえた現状、そして、今後をどのようにしていくのかということとをさらに詰められればと思っておりますので、よろしく願います。

(1) につきまして、この他に何か追加でご発言等ございますでしょうか。それでは続きまして、(2) に入らせていただきます。

(2) 幹線公共交通ネットワークの構築について

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

(2) 幹線公共交通ネットワークの構築について、交通政策課から説明をお願いします。

**【交通政策課 丸山企画幹】**

幹線公共交通ネットワークについてご説明いたします。資料は7頁をご覧ください。ここでは市町村のエリアを越えます少し広域的な移動手段について、北信地域での方針を定めるにあたってのイメージをご覧いただいております。

中身はこれから決めるものでございますが、左側に公共交通の位置づけ等について記載しており、このエリアにどのような交通機関があって、それがどのような暮らしに役立っているか、どのような役割を期待されているかというようなところを記載しています。こちらは内容も含めて今後ご検討いただくところです。

7頁の右側に具体的な路線と拠点の設定ということで、移動の動きを軸で捉え、軸で結ばれる各拠点を表でまとめたものを記載しています。7頁の表で申し上げてもわかりにくいと思いますので、資料の9頁に図でまとめています。この図が当地域における軸や軸となり得る交通機関を地図に落としこんだものです。これはまだたたき台ですが、このような移動の軸によりまして、地域の皆様の暮らしがきちんと支えられるのか、行きたいところへ行けるのか、ということについてこれから地域の皆様の声を基に議論を進めていきたいと考えております。詳しい内容についてはSCOPの富樫様よりご説明申し上げます。

**【NPO法人SCOP 富樫主任研究員】**

SCOPでは今年度、今回の計画策定業務について東京にありますオリエンタルコンサルタンツさんとJVを組んで受託し、進めているところです。今ほど、丸山企画幹からお話いただいた通り、今日の段階ではネットワークでの構成イメージとさせていただいております。本来であればこのタイミングで交通政策課として、北信地域の交通ネットワークをこのようにしていきたい、というある程度固まった考え方をお示しするのが、本来あるべき姿で

すけれども、皆さんからご意見をお伺いしてる段階ということもあり、現時点では構成イメージとしています。ただ、構成イメージとは言いましてもこんな形のものがこの地域のアウトプットとして出てくるんだ、ということをご理解いただければと思います。また、イメージと言っても闇雲に線を引いてるわけではなく、根拠に基づいて作図しておりますので、その考え方をご説明させていただき、それに対しての違和感あるところ等についてご意見をいただければと思っております。

9頁の右下の凡例を見ていただきますと、赤青緑という3色で作分けしています。大きい方から赤青緑となっており、赤が広域都市連携軸として長野県と三大都市圏もしくは北陸エリアを結ぶ、国土の軸をなすような大きな軸としております。

長野県の場合にはその軸を、北陸新幹線と今建設中のリニア中央新幹線、それから中央西線を通っている特急しなの、中央東線を通っている特急あずさのこの4本を広域を形成する軸と位置づけています。なお、高速バスの路線で地域と3大都市圏を結んでいる路線も北信地域にもあると思いますが、今回に関しては、鉄道の軸で定常的に動いているものという位置づけにしております。その中で、北信地域の中では北陸新幹線の駅がある飯山駅周辺、飯山市街地周辺を広域拠点と位置づけて、大きな結節点としています。そして域外になりますがこの先は長野があり、上田があり、佐久があり、西の方には松本があり、木曾福島がありという位置づけです。

次に青い軸になります。これを都市間圏域間連携軸と位置づけておりまして、長野県の中で10の広域、それから北信地域の場合には県境をまたいで新潟県を結ぶ大きな軸と位置づけています。具体的には北信地域の場合は、鉄道では飯山線、しなの鉄道北しなの線、長野電鉄長野線の3本を都市間圏域間連携軸と位置付けています。

そしてその拠点があるところの青い丸を、都市間圏域間連携拠点と位置づけ、先ほどの飯山市街地の他に中野市街地を位置づけています。これは国土交通省の補助要綱の別表5というものがあるのですが、県域の中の主要都市（中心都市）として位置づけているところに倣っています。北信地域に関してはこれが中野市と飯山市の二つになっております。

次のレベルになります緑色の線が、地域間連携軸ということで、この北信地域の中の生活拠点もしくは観光拠点を繋ぐ軸として位置づけております。また、その結節点になるところが緑の丸で位置づけてある各ポイントとなります。7頁に戻ってご覧いただきますと、7頁の右側に具体的にどの路線どの拠点がどの軸になるのかということを示しています。このうち上から3番目のところになりますけれども、長電バスの上林線、永田線、野沢線、中野木島線、この四つの路線を、地域間連携軸の幹線という位置づけにしています。具体的に言いますと、現在、国の認定を受けている地域間幹線系統の補助対象路線に合致する形になっています。北信地域の場合にはそれが完全に合致する形になっています。

実務的な話になって恐縮ですけれども、皆様の市町村でも、おそらく地域公共交通計画を作っているタイミングかと思いますが、今なぜこの地域公共交通計画を作るかというところで、一つの事情としまして、令和6年10月からスタートする運輸事業年度において、補助の継続を得るためには計画に位置づけて、計画に明記しなければならないという規定があり、そういった観点からも、県内にある地域間幹線系統、北信地域は4路線を位置付けて

います。これを幹線と位置づけて、表の各路線の後ろに、星印がついてますが、この星印ついてる路線が、既存の地域間幹線系統という記載にしています。

この表の下に、黄緑色で準幹線と記載していますが、これは幹線の少し格下になるような路線で、例えば北信地域の場合には合庁線や菅線が当たってくると思いますが、今現在この表の中には載せていません。他の地域とのバランスを踏まえて今後考えていきますが、今リストに載ってる路線は県が関与することになるであろうことを想定している路線になってこようと思います。

それから拠点については、市町村ごとに地域の拠点になるところが少なくとも1ヶ所、その他に幹線バスが結節する観光地であったり、そういったポイント、例えば上林温泉等を位置づけています。各市町村の拠点に、この赤青緑の路線が結節していないところは準幹線等でサポートしていかなければならないということになります。北信地域の場合には全ての市町村に関して、赤青緑の軸が通っていますので、ある程度県としては、軸の形成としては成り立っていると思っています。繰り返しますが、既存の路線を中心に計画を作っていますので、新しい軸については現在、設定してないところです。長野県内で新しい軸として作るか作らないかという議論でわかりやすいところでいいますと、伊那と木曾を結ぶ権兵衛トンネルという道路があります。このトンネルは平成18年に新しく開通し、現在は公共交通が走ってない状況ですが、県として「軸」として設定して公共交通を運行させることによって、新たな人の流れを呼ぼうという話もありますが、そこまでは現段階で踏み込めていない状況です。ただ、現在そういうことをしてないというのは、この計画は、前回の会議でも説明しました通り、徐々に成長していく計画ということで位置づけており、最初の段階では小さく作り、更新しながら徐々に大きなところも盛り込んでいくという位置づけにしております。いずれにしても、今回お示ししました9頁のこの図をご覧ください。もう少しこういった軸がいるのではないかと、ですとか、載せられるかどうかは別としてご意見はぜひいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### 【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】

ありがとうございました。ただいまの説明につきましてご意見等ございましたらご発言をお願いしたいと思います。9頁で各連携軸が出ておりましたが、こちらにつきまして、ご発言いただきたいポイントが10頁に記載しています。

#### 【柳澤委員（長野工業高等専門学校教授）】

9頁で示していただいたネットワーク図で、先ほどの取り組みの方向性で説明された県内どこに住んでいても、大きな不便なく公共交通を利用して、医療機関や高等学校に通院・通学できる環境を目指すということが、この軸で達成できると考えて設定してるということでもよろしいでしょうか。先ほどの説明では、まずは既存の幹線をしっかり位置づけてそこからどんどん改善していくというお話ですけれども、最初の設定に対してこのネットワークがどれだけ有効なのか取り組みの方向性は、担保されるのでしょうか。

#### 【NPO法人SCOP 富樫主任研究員】

このネットワークで5頁に掲げた方針が担保できるか、ということでもよいでしょうか。5頁に掲げた方針が担保されるネットワークになっていかなければ、計画の目標が達成でき



ないところがありますので、そうあるべきですけれども、現在この図がそれを達成できているか、ということについては難しい部分もあります。いずれにしても県と市町村の役割分担がありまして、この図の緑の丸のところまで各市町村のコミュニティ交通で連れてきてさえもらえれば、あとは通勤通学の拠点になる赤青ところ、あるいは隣接する長野の市街地等まではアクセスできます、という状態にするということになります。両者の役割分担があって初めて方針の達成になるかと思っています。

**【柳澤委員（長野工業高等専門学校教授）】**

そうしますとこの拠点の設定は非常に重要ということですね。各市町村の交通ネットワークがそこに集中できるような部分に拠点がなければ、このネットワークは効果を発揮しないということですね。ここまで連れてきてくださいっていうのはいいのですが、では、公共交通を使う人は目的があって行くわけですが、終着点のところきちんと都市機能があるかどうかということです。当然のことながら、拠点に着きました、そこから何らかの手段を用いてちゃんと目的の施設に行けます、というところにやはり拠点が設けられているということによろしいでしょうか。

**【NPO法人SCOP 富樫主任研究員】**

先ほど下高井農林高校での話ありましたが、拠点までは来たけれども、目的施設まで行かないという話に関しては、市町村の中で行うというより、県全体として各目的施設までのアクセスは考えていくべき重要ポイントになってくるんだろうと思っています。そこまで達成できるかどうかは、今の段階でなんとも言えないところですが、家から拠点まで連れてくる場所までは各市町村にお願いするとしても、拠点まで来た後に、拠点から少し離れた病院や学校、スーパーまで行けるかどうかということに関しては、これは市町村の役割とは別の部分で考えていく必要が高い部分と私は認識しています。

**【柳澤委員（長野工業高等専門学校教授）】**

そこが担保できるかということまでやはり調査を行っていただければと思いますが、こうしたデータももう取られているということによろしいでしょうか。ある程度の根拠があってこのネットワークが示されている、あるいは7頁の表はある程度の根拠があって示されているということでお伺いしましたが、終着点からイグレスも含めた上で検証しないといけないと思います。さらに、起点からのトリップは目的の都市機能施設に向かいますが、北信地域にある施設に向かわせるのか、長野地域に向かわせ、地域外のところで目的を達成するのか、も考慮する必要があります。

取り組みの方向性を地域外のところで担保するのか、地域内のところで担保するのかは地域づくりにもつながります。地域外で基本方針を担保しようとした場合は、それだけ移動の時間もかかるため、移動抵抗が大きくトリップを止めてしまう場合もあります。そのあたりも踏まえてこのネットワークが機能するのかということが重要だと思います。

**【NPO法人SCOP 富樫主任研究員】**

そのあたり検証して進めていきたいと思っています。各目的施設までのイグレス、しっかり到達できるということまで含めて、各施設データやその施設にアクセスするための路線もデータとして持っていますので、そこをうまく繋いで確認していきたいと思っています。

**【柳澤委員（長野工業高等専門学校教授）】**

北信地域で考えていますけれども、当然そのネットワークに繋げるってということについては北信地域で考えますが、目的地については、地域外も検討するというところでよろしいですか。長野や須坂にも路線としては繋がっていますので北信地域外のところも出てくるとして考えて、検証するというところでよろしいでしょうか。

**【NPO法人SCOP 富樫主任研究員】**

おっしゃる通り、当然ながらその北信地域の中だけでとどまるものではありませんので、北信地域の方が関係性の深い長野地域、須坂や長野市街地まで含めた、施設利用までを想定して検証していくことになるかと考えています。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

広域を結ぶ部分、県の部分と市町村の部分と、ということでこれから考えていけないといけないところ、さらに、最初は小さいところからということですが、緊急でお願いしましたアンケートでも考えていきたいこととしてご意見をいただいておりますので、その辺りも含めてこれからさらに内容を詰めていかなければいけないかなと思っております。

では、続きまして資料の11頁、今後のスケジュールについて説明をお願いいたします。

**【交通政策課 丸山企画幹】**

資料11頁のスケジュールをご覧いただいております。記載されているところでいきますと、この後10月20日に全体会議を予定しており、今年度3月までに計画を策定するというスケジュールで現在進めさせていただいております。

ただ、若干作業等の遅れもございますので、このあとスケジュールに変更がある可能性もございますので、変更等ございましたらご案内させていただきたいと思っております。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

資料の説明につきましては以上となっておりますけれども、これまでの説明につきまして何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

次回の部会を開く際は、具体的なものが出てきて、もう少し委員の方に早めに資料提供いただき、委員の方が吟味できるのでしょうか。これから行う第4回の会議の設定時期にもよると思いますが、どの辺りを想定されてるのでしょうか。今、11月が遅れるかもということでありましたけれども。

**【交通政策課 丸山企画幹】**

資料については早めに提供させていただきたいと思っておりますが、スケジュール自体が動きそうなどころがありますので、いずれにしても早めに情報提供させていただいて、皆さんで議論いただけるような形で準備をさせていただきたいと思っております。

**【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】**

会議事項（2）につきましてはここまでとさせていただきます、続きましてその他の事項といたしまして、Maasの基盤作りに向けた取り組みにつきましてご説明をお願いします。

**【交通政策課 丸山企画幹】**

資料ございませんが2点、デジタル化の推進関係でお話いたします。

一つはキャッシュレス決済の導入の関係です。県内の交通系ICカードやQRコードによる決済が普及してないところが多く、全県的に早く入れる必要があるということでこれまでの会議でお話してきたところです。今年に入り、他県においてJR東日本が提供している地域連携ICカードの導入が進んでいることも踏まえまして、県全体として、JR東日本が提供する地域連携ICカードを軸に、行政の支援を交えながら普及させていきたいということ、次回10月20日の全体会議の議題でお話しできればというスケジュールで考えております。

もう一点これはチラシ資料でお配りしてありますが、オープンデータ化のセミナーの関係です。Googleマップですとか、Yahooの路線検索で鉄道や飛行機の時刻を調べる方が多いと思いますが、そこにバス路線を掲載することによって、時刻や降りるバス停の場所等が検索できるようになります。県では今年度予算を確保しまして、株式会社ドーコンと委託契約を結び、県内の全てのバス路線のデータが載せられるように事業を進めております。我々でデータの作成をしますが、ぜひバス事業者の皆様、そして定時定路線のバスを運行している市町村の皆様におかれましては、データ整備の意義やデータの利活用について学んでいただきたいということで、研修会を用意いたしました。オンラインでも参加できますので、バス事業者の皆様、市町村の皆様におかれましては、積極的にご参加いただきたいと思っております。

#### 【北澤会長（北信地域振興局企画振興課長）】

ありがとうございます。ただいまのご説明につきまして何かご発言、ご質問ご意見ございますでしょうか。

（発言なし）

よろしいでしょうか。

予定していた会議事項につきましては以上ですけれども、この際何かご発言とございましたら、お願いしたいと思っておりますけれども、何かございますでしょうか。

ないようですので、これで会議事項につきましては終了させていただきます。進行を事務局に返したいと思っております。円滑な会議の方名またご議論いただきましてどうもありがとうございました。

#### 【事務局】

最後に事務局から2点ほどご連絡をさせていただきます。

一点目、最後の方でスケジュールの説明がございましたけれども、次回の地域別部会の開催は11月頃ということでございますので、日程調整についてあらためてご連絡をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。二点目、本日の会議の議事録でございますけれども、県のホームページに掲載を予定しておることですので、後日、事務局で議事録を作成しまして、今日ご発言いただいた委員さんへ確認をいただきますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは以上で第3回長野県公共交通活性化協議会北信地域別部会を終了いたします。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。